

日本バプテスト連盟奨学金を希望される方へ

日本バプテスト連盟奨学金を希望される方は「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」に基づき、下記の要領で申請いただくようお願いいたします。詳細は日本バプテスト連盟全国壮年会連合へお問い合わせください

《申請期限》 2025年度入学予定者…2024年10月1日（火）（必着）

《申請書類》

※ 申請書類及び関連規程は全国壮年会連合ホームページ <http://www.sonen.net> の「ドキュメント」ページからダウンロードして下さい。

※ なお、本様式は西南学院大学に提出する書類とは異なり、本奨学金貸与申請専用の様式です。お間違いないようご注意ください

《問合せ・資料等請求先》

〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和1-2-4 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局
Tel/Fax:(048)886-7533 (月・水・金 10:00~16:00) e-mail:sonen@bapren.jp

申請書類	入学予定者
◇西南学院大学神学部・大学院学生奨学金願書	○
◇奨学金申請に関する推薦教会の推薦決議書	○
◇西南学院大学神学部・大学院学生奨学金申請履歴書	○
◇召命・献身決議書(神学部提出のコピーは不可)	○

規約細則第6条の定め（60日以上前）により表題の件を通知いたします。

公 告 2024年度全国壮年会連合総会に関わる件

- 総会日時：2024年8月23日（金）
総会は文書による総会とし、投票結果の開票日を総会日とする。
- 開催場所：日本バプテスト連盟事務所
- 議案：全国壮年会連合ニュース第132号 5月31日（金）までに役員会sonen@bapren.jpに提出下さい。（6月下旬頃予定）でお知らせします。
- 代議員登録（規約細則第4条、第7条による）
※ 派遣代議員：各教会・伝道所3名まで登録可能
登録締切日：5月31日（金）
- ※ 規約細則9条により壮年会等は議案を提出できます。

（登録方法）QRコードからGoogleフォーム登録です。

代議員登録と大会参加の方（Zoom）はこのフォームから登録ください。

※代議員登録者には議案書と登録用紙、参加者には大会資料ををお送りします。



2024年度第1回全国壮年会連合役員会報告

2024年4月13日（土）連盟事務所において、高良研一新会長を中心とした新役員体制での第1回全国壮年会連合役員会が開催され、代表者会議（6/1）と総会（8/23書面決議）に向けて、規約の改定、活動計画案、予算案等について話し合われました。特に、神学校献金の用途拡大、ニュースレターの発行、神学校週間の取り組み、ジェンダーレスへの対応等の新しい取り組みについて議論されました。数値データとしては、会費納入率46.4%を50%まで、また神学校献金納入率77.3%を80%まで引き上げたいとの具体的な目標案も示されました。



2024/4/13連盟事務所での役員会

全国壮年会連合では、「伝道者養成と教会形成」のより具体的な取り組みをするために、代表者会議と神学校献金推進委員会でも「献身者の掘り起こしについて」の協議・推進を展開する予定です。

（副会長・事務局長 稲川 仁）



日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
事務局執務：月、水、金 10:00~16:00 ☎fax:048-886-7533 <http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp

伝道者養成 & 教会形成

全国壮年会連合 NEWS

第131号
2024/4/20
発行

日本バプテスト連盟
全国壮年会連合
発行人：高良 研一
編集人：稲川 仁
Topics Password ▶ sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

〈全国壮年会連合会長 就任挨拶〉

高良 研一（恵泉教会）

これまでの役員の皆様の6年間にわたるお働きに心より感謝いたします。実は私は3月まで全国壮年会連合役員会の監査の一人として約3年間半その働きを担ってきましたが、全国壮年会連合の会長になるということは全く考えておらず、私の使命として全然違う他のことをやっていたと考えて準備を始めておりました。しかしながら、会長立候補の話をいただきましたが、昨年「風に吹かれるままに」という私自身のテーマを掲げていましたので、祈りの内に、会長のことは聖霊、即ち主に委ねるようにと導かれてきました。そして昨年8月の文書による総会では、私が会長になることが承認されましたが、文書による総会ということで、その場で、事務局長、会計、書記を選ぶことができませんでした。その後、連合ニュース（第129号2023/12/20発行）で紹介させていただきました。正式には今年8月の定期総会で承認いただきますのでよろしくお願いいたします。



全国壮年会連合を取り巻く情勢を見ますと、近い将来、男性のみならず、誰でも「伝道者養成と教会形成を担う」働きに参加できる組織への変更が求められているのではないかと考えております。私が属しております「東京地方壮年連合」は既に昨年11月の総会で、男性のみならず、誰でも参加できる組織への基本方針案が承認されて、今年はその規約改正を行う予定なのです。また「伝道者養成」というスローガンの元に、「神学校献金（用途の拡大を踏まえて）」「奨学金制度の運営」、そして今や喫緊の課題である「献身者の掘り起こし」や、第二のスローガン「教会形成を担う」働きを更に推進していかなければなりません。そのために学び、伝道隊の派遣や様々の奉仕を必要とされている教会への協力伝道の取り組みも実現していきたいと考えております。皆様のご理解とご支援・お祈りをお願いいたします。

新役員紹介

○ 副会長兼事務局長 稲川 仁（いながわ ひとし）（宝塚教会）

自宅を開拓伝道・農業、製薬工場で薬剤師、7ヶ国半移住、投資家、九バブ後援会役員、関西壮年会役員。自分を捨て、自分の十字架を負って、イエス様に従います。



○ 書 記 木村 均（きむら ひとし）（大井教会）

全国壮年会連合で奉仕をするのはこれが初めてです。昨年度までは、東京地方壮年連合のブロック委員として活動してきました。この度、全国壮年会連合の書記をお受けしました。責任を全うすべく頑張りたいと思います。



○ 会 計 高井 透（たかい とおる）（高崎教会）

皆様からお献げいただく尊い献金を管理する会計担当は、私にとって荷が重い役目でしたが、全国の壮年の方々とお交わりはそれ以上の恵みであるとうやく気づいたところです。笑顔で、祈りつつ参ります！



○ 監 査 堤 秀幸（つづみ ひでゆき）（福岡西部教会）

聖名賛美。私、22年・23年に引き続き24年・25年の監査をさせていただきます。壮年会連合の監査は正直申し上げて大変です。今まで2年の経験から監査がさらに充実するように努力したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



○ 監 査 大城戸 一彦（おおきど かずひこ）（所沢教会）

監査として今年度は皆様と全国壮年会連合の働きに協働させていただきたく思います。主が皆様のお働きを豊かに用いてくださることを願って前向きな提案ができるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



「これからの伝道者養成」について、壮年会連合がやろうとしていること（その3）

全国壮年会連合前副会長 豊永義典

129号では、「これからの伝道者養成」についての連盟理事会の考え方、全国壮年会連合（以下、壮年会と略す）への要請の内容について、130号では、神学生奨学会計の現状と、新たな「基本金」の設定、理事会提案を実行した場合のシミュレーション検討結果、を説明しました。今回は昨年末から今年3月までのその後の動きについてお伝えすることにします。

2月初旬の連盟第59回総会に提案された「奨学会計基本金に関する件」「これからの伝道者養成アクションプラン、及び財務計画」は、200教会前後の投票によって賛成多数で可決承認されました。

この総会承認を受けて、理事会は2月10日に壮年会に対して正式に、神学校献金の用途の拡充、連立等神学校の運営のために用いることを認めるよう要請文書を出しました。

また一方で、今回の理事会と壮年会の取り決めを「覚書」として両者が結ぶべく、昨年末からその内容の検討に入っています。

1. 連盟総会への議案のなかで理事会と壮年会が訴えてきたこと

● 今回の理事会からの提案「神学校献金の用途を拡充し、連立等神学校の運営のための支援に用いる」に、壮年会役員会が同意して進めているのは、3つの神学校が出してきた将来計画であれば、奨学会計の健全性を保ちながら、これまで私たちが進めてきた神学校献金推進運動のなかで対応が可能であると判断したからです。

神学校献金の金額は、コロナ前の2000万円台から1500万円台まで減少しました。しかし壮年会連合は、東京・九州の両神学校が牧師を志す献身者の教育だけでなく、自分の教会の教会形成に取り組む信徒の学びの場としても、より充実した場となるよう願いを持って、神学校での学びを奨励し、献金額を再度2000万円台に戻すよう献金運動を盛り上げようと考えています。

●（その2）の記事のなかで、「償却引当金」の考え方にふれましたが、2023年度の決算書から神学生奨学会計「決算報告書（貸借対照表）」の「負債の部」に「償却引当金」を計上し、それを差し引いた繰越額を示すことで、現実的な奨学会計の資産の状況を「見える化」します。

2. 8月の定期総会に向けて

● 壮年会連合役員会は、4月から高良会長、稲川副会長・事務局長の体制に代わります。（1面参照）

前役員会メンバーも総会に向けて新役員会に協力しながら準備を進めますが、全国の教会・伝道所の壮年の皆さんにお願いがあります。

今回の神学校献金の用途を拡充し、奨学金以外に使用することは大きな変更ですし、連立等神学校への支援をしっかりと維持していくには、これまで推進してきた神学校献金運動を更にみんなでバックアップしていく必要があります。これまで届けてきました（その1）（その2）とともにこの紙面を、各教会の例会等であらためて話題にして頂き理解を深めて下さることを願っています。

併せて今回のことをきっかけに、各教会から連立等神学校で聖書のより深い理解のため、教会形成のために学ぶ方々が起こされることを期待しています。

8月の定期総会は今年も文書による総会となりますが、事前に議案説明会をZoomで行ないます。多くの壮年の方々が参加され、活発な質疑応答の場としたいと思って役員会は準備します。

本件についての疑問や意見は、壮年会連合事務局（048-886-7533、sonen@bapren.jp）までどうぞ。

「第59回全国壮年 西九州大会に向けて2」

実行委員長 野中滋生（相浦光教会）

主のみ名を賛美いたします。

2024年度の「第59回全国壮年大会」は、西九州地方連合壮年会が担当して、いよいよ下記のとおり開催されます。

■日時:2024年8月24日(土) 9時30分～16時30分

■開催方式:オンライン(Zoom)

■テーマ:「協力伝道」

○大会主題:わたしたちの心は燃えていたのではないか ～臨在の主に、心燃やされて～

○主題聖句:『二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたのではないか」と語り合った。』(ルカによる福音書24章32節)

○開会礼拝・主題説教 芦谷隆時(長崎バプテスト教会教会員)

■事例発表・質疑応答

○事例発表「協力伝道・地方からの発信 ～西九州地方連合の取組をととして～」

①西九州地方連合の紹介

②事例発表1「西九州地方連合と五島教会との交流の歩み」

③事例発表2「西九州地方連合内献身者の働き」

これまでに21回の実行委員会を行い、準備を積み重ねてきました。その準備もこれからいよいよ最終段階に入ります。

西九州地方連合は、日本の最西端に位置する佐賀県、長崎県内の12教会、1伝道所で構成された小さな連合ですが、Zoomを通してその取組を全国の教会・伝道所に発信したいと頑張っています。そして、壮年会活動の枠を超えた一地方連合の取組を、全国の多くの皆さんにぜひ見て、聞いていただきたいと願っています。

引き続きお祈りいただきますよう、よろしくお願いいたします。



「神学生の証し」 西南学院大学大学院 神学部 博士前期2年 吉田睿濤（推薦教会 松本福音村教会）



主の御名を心から賛美します。

日頃から私共神学生を覚えてお祈りとご支援いただき大変感謝いたします。

いよいよ神学校卒業まで残り一年となりました。神学校に入る時には必ず自分が神さまに献身者として召された証しを持つようになりますが、私が西南に入る前と入った後の証しが主にあって変えられたことを感じております。最初は牧師という、世間からみればなんとも不安定な道だということで、召命を受けた時も、正直確信を持たずこの西南に入ったことを覚えております。しかし、この数年間神学生として学び、経験し、出会って来て、神さまが気づかせてくださったのは、結局人間の領域内では「確信」することが不可能だということでした。私たちが確信を持って献身をするということは、その献身の道に不安ながらも一歩を踏み出した私たちの人生

を神さまが守り、用い、大いに導いてくださる恵みがあるゆえに確信「できる」のではないかと思います。神学校では献身者として立つための様々な貴重な経験や学びを享受できる場であると感じ、感謝しております。特に私が有意義だと思った学びは、教会形成論の学びです。今後教会はどのように変わる必要があるのか、あるいはどの部分を大切にしていこう必要があるのか、など私にとっては非常に深く考えさせられるような内容でした。実際に教会形成論を土台とした論文作成にも励んでおります。残り一年となりましたが、一日一日を大切にしながら神学生期間、自分を砕き主を仰ぎ見ながら備えてきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

主の素晴らしい平安が皆さまの上に豊かにありますように。